

株式会社化合物安全性研究所

〒004-0839 札幌市清田区真栄363-24 ハイテクビル真栄
TEL 011-885-5031 FAX 011-885-5313 URL <http://www.ka-anken.co.jp>

化合物の安全性評価から医薬品開発までを担う総合的試験受託事業を展開



会社データ

設立 昭和45年9月
代表者 松浦 正男
資本金 2億5,040万円
従業員数 80名

事業内容

医薬品、農薬、化学品、化粧品、食品添加物、健康食品、動物用医薬品、飼料添加物等の安全性試験および薬理試験並びにヒト臨床試験の受託

化合物安全性研究所は、医薬品・医療機器・化学物質・農薬・化粧品・食品・動物用医薬品等のヒトに対する安全性や効果を動物試験で確認する非臨床試験の受託事業と、後発医薬品（ジェネリック医薬品）が先発医薬品と同等であるかを確認する生物学的同等性試験を実施する臨床試験の受託事業の2事業を展開している。

<顧客本位主義>（行動理念の一文）

「私たちは、常に人々の声に真摯に耳を傾け、真の満足を提供します。」

化合物安全性研究所では、これまでの多くの実績を活かし、顧客の目的に応じた最適な安全性評価の企画・提案を行うとともに、共同開発・共同研究の実施など、全社員一丸となって顧客の幅広い要望に応えている。

2011年度に3つの設備投資

化合物安全性研究所は2011年度に、より多くの顧客の要望に応えることができるよう、動物飼育室の増設、安全性試験支援システム「GLPコンピュータシステム（MiTOX）」の導入、高度化学分析機器「LC/MS/MS」の導入などの設備投資を実施する。

「動物飼育室の増設」により、これまで24室だった飼育室が35室になり、年間約500試験の実施が可能となる。

「GLPコンピュータシステム（MiTOX）」は、非臨床試験におけるデータの収集、解析、管理、運用業務をコンピュータシステム化するもの。これにより、データ収集のオンライン化やデータ解析の自動化で、作業の効率化とデータ管理信頼性の向上、報告書作成までのスピードアップなど、さらなる顧客サービスの向上が可能となる。GLPコンピュータシステムの本稼働は、2012年4月開始を予定している。

「LC/MS/MS」は、高速液体クロマトグラフ（HPLC）と質量分析計（MS）を結合させた高度化学分析機器。この機器の導入により、精度の高い分析と解析が可能となり、医薬品の開発支援など、多くのお客様の依頼に応えることが可能となる。

再生医療分野に進出

化合物安全性研究所では2010年度より、東京大学と共同で培養軟骨の受託研究を開始した。東京大学とベンチャー企業が製品化を進めている培養軟骨の開発について、安全性試験の部分で参加している。再生医療製品は、医療機器の延長線上にあると捉えられているものの法整備が進んでいないため、各省庁で検討されている法整備の進捗状況を見ながら、安全性試験の方法を検討しつつ進めている。

また、医療機器の安全性試験では、早くに医療機器GLPを取得したこともあり、試験実績は国内トップクラスを誇っている。これまでの豊富な実績を活かし、より強固な顧客サポートを行っていく方針だ。

今後の経営方針

化合物安全性研究所は、1970年に会社設立以来、今年で41年目を迎えたが、同社では、このことは多くのクライアントから指名・用命を得てきた賜物としている。

今後もハード・ソフトの両面から見直し・拡充に全力を挙げて取り組むとともに、新規試験の立ち上げなどにも積極的に取り組み、高くなる顧客ニーズにしっかりと応えることができるよう、更なる発展を目指している。